特集

今、求められる防災教育

8/22

■東海小学校防災学習交流事業

東海小学校では、平成16年の水害を契機に防災教育を推進してきた新居浜市立多喜浜小学校との防災交流事業を実施しました。

東海小学校からは「防災マップづくり」を、多喜浜小学校からは「南海地震被害と平成16年台風被害」をそれぞれ防災学習の成果として発表し、意見交換を行いました。また、「防災マップ」をもとに地域を見て歩くフィールドワークを実施し、東海小学校児童が作成した「防災カルタ」で両校児童・保護者が親睦を深めました。

8/23

■防災フォーラム

今年の防災フォーラムは、「防災教育の推進」をテーマに、学校教育の展開を通じた「防災文化」の創造をめざして開催しました。

「地域にねむる防災資源ー地震・津波災害の体験談収集とその利用ー」と題した村上仁士徳島大学名誉教授の基調講演では、過去の地震など災害の記録を調べることによって、町の弱点、地域の特性をつかみ、被害を出来るだけ回避し早期に復興できる体制作りが必要とお話されました。

そして、愛大防災情報研究センターの鳥居謙一副センター長をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、パネリストの多喜浜小学校の渡部範明校長からは、自分の命は自分で守る力を培っていける「防災教育」の必要性を、宇和島市立蒋渕小学校の木原要子校長からは、防災教育はどの学校でも取り組みができ、継続することが重要であるとの意見が述べられました。

愛大防災情報研究センターの矢田部龍一教授は、防災教育には公徳心に富んだ家庭力と地域力の復興が必要であると訴えられました。